

2012年度 薬膳の旅

～「各国の薬膳」を勉強しながら

「中国の世界文化遺産」を巡る旅～

連載2回目(全3回)

2012年10月19日から26日、7泊8日の「薬膳の旅」。主に観光(上海・浙江省杭州市紹興市・安徽省黄山市)の様子を2回に分けてお送りします。



## 2012年薬膳の旅 (1/2)

15期中医薬膳師コース卒業生 手塚 温子

今年の薬膳の旅は、日中友好40周年の記念すべき素晴らしい旅になりました。

私は、中国大陸への旅行は初めてになります。政治的に不安定な状況になり、日々の報道を考慮して、自粛する決断もありました。しかし、私は国際薬膳師です。食文化を通じて、中医学や歴史などのさまざまな中華思想を学びました。私の気持ちは、「こんな時期だからこそ訪ねて、普通に暮らす中国の人々の生活を知りたい」また「食養生を大切に思う、世界の仲間にも会いたい」と、思いました。私の訪中は、小さな民間交流にしかありません。それでも、私は互いに目をみて交流することは、「大きな力になる」と思い、参加することにしました。

今回の観光は、上海・浙江省杭州市紹興市・安徽省黄山市(黄山区・徽州区・屯溪区)を巡りました。世界遺産は、西湖・黄山・安徽省古村落の3カ所になります。

浙江省杭州市は古来より「上有天堂・下有蘇杭」とたたえられた景勝の地。世界文化遺産西湖は天然の湖です。その西湖を中心に美しい景観が広がっている。マルコポーロは『東方見聞録』の中で「地上の楽園」と絶賛した町です。現在は、1元札に描かれています。

私達が、河坊街に到着したのは夕暮れ時でした。長いバス移動で疲れもありました。しかし、穏やかな町の雰囲気、心が和みました。ここには老舗の漢方薬局が3店舗もあります。どれも建物から歴史を感じる、重厚なおもむきです。



店内に入ると、広くて活気がありました。生薬の種類がおおく、どの店もオリジナルの症状別煎じ薬が並び、また西洋の薬と見間違えそうなパッケージの漢方薬が、散剤・丸剤・液剤と種類が豊富にありました。私はどんな時代になろうと、漢方薬が人々の生活に浸透している印象を強く受けました。病院ではなく、気軽に足を運べる町の薬局が、とても充実しているのを目の当たりにして、中国の人々の未病意識の高さを実感しました。

河坊街の印象は、分け隔てがないことです。老舗の漢方薬店もあれば、小さい露天で漢方薬ののど飴を販売していました。老街の景観に溶け込んだマクドナルドには驚きました。

私達は、西湖の畔にある西子賓館に滞在しました。朝霧の中、ホテルの庭を散歩すると西湖から心地よい風が吹いてきました。旅の疲れを忘れるほどの、穏やかな風でした。後日、遊覧船に乗り、西湖クルーズを楽しみました。行き交う船から互いに手を振り、乗り合わせた人達との会話も弾みました。

そして、私達は杭州名産の龍井茶の産地と、その茶畑の中にある中国茶葉博物館の見学もしました。お茶には水が欠かせません。819年に創建された禅寺の敷地内に湧く銘泉・虎跑泉にも行きました。敷地内は湧き水をくみに来る人が多く、地元の人に親しまれている場所でした。私は、歩いているだけで水の流れる音と、木々の間からの零れ日が幻想的で、自然の素晴らしさに、何度も大きな深呼吸をしました。

浙江省では紹興市にも足を運びました。世界的に有名な名産は紹興酒です。春秋戦国時代には、越の都がおかれていました。近年では1881年紹興に生まれた魯迅です。彼は医学生として仙台に留学した経験もあり、その後中国現代文学の第一人者と呼ばれる名作を生みました。(5ページに続く)

